

教科指導

実践のヒントとアイデア

※学習活動の実施に当たり、新型コロナウイルス感染症に関わる各自治体の対応方針を踏まえるなど、子供の安全確保に十分配慮してください。

小学四年生

国語

場面と場面をつなげて読み、登場人物について考えたことを話し合う
筆者の考えをとらえて、自分の考えを発表しよう

算数

折れ線グラフと表
わり算 (1)

体育

めざせ「かけっこ・リレー名人」
～走・跳の運動（かけっこ・リレー）～
みんなで楽しもう！ わくわく体づくり運動
～体づくり運動～

領域 C読むこと

場面と場面をつなげて読み、登場人物について考えたことを話し合う

教材名「白いぼうし」 光村図書四年上

執筆 筆／青森県田舎館村立田舎館小学校教頭 庭田瑞穂
 編集委員／文部科学省教科調査官 大塚健太郎
 大妻女子大学准教授 榊山敏郎

年間指導計画	内容
4/5月	場面と場面をつなげて読み、考えたことを話そう 筆者の考えをとらえて、自分の考えを発表しよう
6/7月	場面の様子をくらべて読み、感想を書こう 新聞を作ろう
8/9月	あなたなら、どう言う 気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう
10/11月	クラスみんなで決めるには 中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう
12/1月	感動を言葉に きょうみをもったことを中心に、しょうかいしよう
2/3月	もしものときにそなえよう 読んで感じたことをまとめ、伝え合おう

1 単元で身に付けたい資質・能力

①身に付けたい資質・能力
 本単元では、場面の移り変わりに着目しながら登場人物の行動や気持ちを捉える力を付けます。そのために、登場人物の行動や会話から性格を想像したり、地の文にも注目して読んだりするようにします。
 また、場面全体をつなげて読み、複数の叙述を基に登場人物の行動や気持ちを捉えることができます。

②言語活動とその特徴

単元を構成するにあたっては、子供が目的意識を明確にもって読むことができる、子供の主体性を引き出す言語活動を設定することが必要です。
 そこで、本単元では「白いぼうし」を読み、子供たちが登場人物について不思議に思ったことを問いにし、叙述に書かれていることを根拠に話し合い、自分の考えを感想にまとめるといった言語活動を設定します。
 自分で考えた問いの答えについて考え、その根拠を叙述から読むことで、登場人物の気持ちを捉えることができます。その際、物語全体を見通して、複数の叙述から行動や気持ちなどを捉えるようにすることが大切です。お互いの考えを交流するにあたっては、考えの根拠となった叙述を示し、そこから想像したことを話し合うようにします。

指導事項〔知識及び技能〕(1)ク(「思考力・判断力・表現力等」)C(1)イ、エ 言語活動 イ

2 単元の展開(7時間扱い)

次時	主な学習活動
一 1・2	①全体を読み、物語の構成(登場人物・場面の様子など)について捉える。 ②物語を読み、感じたことや考えたことから不思議に思ったことを取り上げ、問いにまとめる。 学習課題「白いぼうし」の不思議を解決しよう。
二 3～5	③松井さんの行動に関しての問いについて考え、話し合う。 ・松井さんは、もしよろしうちようの代わりに、なぜ、夏みかんをぼうしの中に入れたのだろうか。 ④女の子の行動に関しての問いについて考え、話し合う。 ・女の子はどこから来たのだろうか。 ・女の子はどこに行ったのだろうか。 ・女の子は誰なんだろう。 ⑤小さな小さな声に関しての問いについて考え、話し合う。 ・小さな声は誰の声だったのだろうか。
三 6・7	⑥「白いぼうし」について感想をまとめる。 ・友達と考えを交流したことで確かめられたことや分かったことをまとめる。 ⑦感想を読み合い、お互いの考えを交流する。

アイデア ① 主体的な読み手にするための課題設定

単元の導入では子供が「白いぼうし」に興味をもち、主体的に読むことができるように自らの問いをつくるという活動を設定します。人物の行動に着目し、不思議だと思ふことを捉え、「問い」をつくり、その答えを見付けるという活動は、子供たちの主体性を引き出すものです。与えられた課題に取

り組むのではなく、自ら設定した課題に取り組むことで、積極的な読みの姿勢を生むこととなります。子供たちの考えた「問い」を整理するために、次のようなワークシート（カード）を活用することが考えられます。

■ワークシート例

課題	登場人物の行動から不思議に思ったことを基にして問いをつくる。
だれが	「松井さん」は、
何を	「なつみかん」を
したのか	「ほしの下にかくした」 でしようか。

不思議に思った行動から問いの形にするためには簡単な文形を示すことが有効です。問い1つずつをカードのようにまとめ、最後に登場人物ごとにノートに貼ることもできます。

アイデア② 自分の考えをまとめたうえで目的を明確にした話し合い

問いに対しての自分の考えを確かめたり、新たな考えに気付いたりするために、話し合いの場を設定します。その場合、子供の実態に応じて、次のようなことを考える必要があります。

〔話し合いの設定〕

- ・ペアでの話し合い：……自分の考えと相手の考えを比べる場合に有効です。2人での話し合いなので、必ず考えを述べなくてはならないため、全員に表現の場が設定されません。
- ・グループでの話し合い：3〜4人で行うとよいでしょう。それぞれに役割を設けることで責任をもたせることができます。ペアでの話し合いに比べ、複数の考えについて考えることができます。

〔話し合いの目的の明確化〕

話し合いは、それぞれの考えを共有したり、考えをまとめたりするために有効な活動です。考えの共有なのか、考えをまとめるのかを明確に示すことが大切です。子供たちに、複数の考えを知る機会とするのか、考えにまとめるのかを明確に示したうえで、話し合い活動を行うようにしましょう。

アイデア③ 考えを深めるための複数の読みの視点を提示

問いに対しての考えをまとめるために、子供たちは叙述のなかから根拠を讀んでいきます。その際、次のような読みの視点を示すことで読みが広がることを深めることができます。

○ヒントは複数の場面にある

子供たちは、1つの段落から問いの根拠を讀もうとしますが、複数の場面のなかに、根拠となる叙述があることに気付かせる必要があります。例えば、女の子に対しての問いについては、全部の場面に根拠となる言葉があることを示すことで、読みの視点を広げることができます。

○色やにおいを表す言葉に注目する

場面の情景を想像させるために、色やにおいを表す言葉に着目することで、物語の世界を現実のものとして想像させることができます。物語の世界に浸ることができるよう、具体的な言葉を取り上げて想像させましょう。

○様子を表す言葉に気持ちが隠れている

様子を表す言葉に着目することで、登場人物の行動や気持ちを想像することができます。一つ一つの行動に理由を想像することを通して、登場人物になりきって考えることができます。

○文章表現の特徴から情景を想像する

文章の表現の特徴についても読むようにしましょう。文章表現の特徴を捉えて会話文から気持ちを想像したり、文の表現の工夫から情景を想像したりすることも必要です。

子供たちがさまざまな読み方で叙述を捉え、物語の世界を想像豊かに読み深めることができるようにしましょう。また、この物語はシリーズなので、ほかのお話も紹介し、読書への興味も深めていきましょう。

〔においを表す言葉〕
レモンのおい、夏みかんのおい、すっぱいにおい

〔色を表す言葉〕
信号の赤と青・白いワイシャツ・緑がゆれているやなぎ

〔様子を表す言葉〕
にっこりして答えました。

- ・ちよこんと
- ・ふわっと
- ・ひらひら
- ・じろじろ
- ・くぐくぐ

〔文章表現の特徴〕

- 「よかったね」
 - 「よかったね」
 - 「よかったね」
 - 「よかったね」
- 段落をすらすらすることで、場面の様子が想像できます。

領域 C読むこと

筆者の考えをとらえて、自分の考えを発表しよう

教材名 「アップとルーズで伝える」

光村図書四年上

執筆 筆/北海道教育庁オホーツク教育局主査
編集委員/文部科学省教科調査官
大妻女子大学准教授

平山道大
大塚健太郎
樺山敏郎

年間指導計画

4/5月	場面と場面をつなげて読み、考えたことを話そう 筆者の考えをとらえて、自分の考えを発表しよう
6/7月	場面の様子をくらべて読み、感想を書こう 新聞を作ろう
8/9月	あなたなら、どう言う 気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう
10/11月	クラスみんなで決めるには 中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう
12/1月	感動を言葉に きょうみをもったことを中心に、しょうかいしよう
2/3月	もしものときにそなえよう 読んで感じたことをまとめ、伝え合おう

1 単元で身に付けたい資質・能力

①身に付けたい資質・能力

本単元では、説明的な文章を構成する段落の役割について理解し、段落相互の關係に着目しながら、筆者の考えとそれを支える具体的な例との關係を捉える力を付けます。また、文章を読んで理解したことを、自分の体験と結び付けるなどしながら、自分の考えを形成することができるようになります。

②言語活動とその特徴

本単元では、「アップとルーズで伝える」など、「人に伝える」ことをテーマとした説明的な文章を読み、考えたことについて文章を引用しながらまとめ、発表する言語活動を設定します。

説明的な文章を読む際には、筆者の考えと具体的な例との關係に気を付けて読むことにより、内容の理解を図るとともに、筆者の説明の工夫について考えることができます。

また、複数の文章を比較したり、重ねたりしながら読むことにより、段落相互の關係について捉えることができます。

自分の考えをまとめる際には、自分が人に何かを伝える場面を想起し、本文を引用することにより、自分の体験と結び付けたり、自分の考えを支える理由や事例を明確にしたりしながら考えをもつことができます。

指導事項（知識及び技能）（2）ア（思考力・判断力・表現力等）（1）ア、オ 言語活動 ア

2 単元の展開（8時間扱い）

主な学習活動

次	時
1	<p>①「人に伝える」ことの難しさについて話し合った後、「思いやりのデザイン」を読み、学習計画を立てる。</p> <p>学習課題 人に何かを伝えるときの工夫について、筆者の考えを捉えて、自分の考えを発表しよう。</p> <p>②「アップとルーズで伝える」を読み、「思いやりのデザイン」との共通点と相違点について考える。</p>
2	<p>③4枚の写真と形式段落の対応關係を確認し、各段落の役割をまとめる。</p> <p>④筆者の考えが書かれている段落を確認し、その考えを支える具体的な例との關係を考える。</p> <p>⑤アップとルーズを対比して説明している段落を確認し、接続する語句に着目しながら、どのように説明しているかをまとめる。</p> <p>⑥アップとルーズを対比して説明していることなど、筆者の説明の工夫について、「思いやりのデザイン」と比較しながら考える。</p>
3	<p>⑦「人に伝える」ことについて、自分の考えとそれを支える具体的な例（場面）や根拠（文章の引用）を明確にしてまとめる。</p> <p>⑧「人に伝える」ことをテーマとした文章を読んで考えたことを自分の体験と結び付けて発表する。</p>
7・8	

アイデア ① 生活経験や既習事項をふり返り、学習計画を立てる

単元の導入では、上手に説明できなかった経験など、「人に伝える」ことの難しさについて話し合うことにより、単元で学習する目的意識を高めます。また、教科書の目次にある「三年生の学びをたしかめよう」や単元のはじめに掲載されている「思いやりのデザイン」を取り上げ、「はじめ・中・終わり」の文章構成や筆者の例の書き方など、第三学年までの学習をふり返りながら筆者の考えを捉えて、自分の考えを発表するための学習計画を立てます。

「アップとルーズで伝える」は、4枚のテレビ静止画と放送している様子の写真、8つの形式段落で構成されており、写真と本文を関連付けて読むことにより、文章の内容や構成を捉えやすくなっています。授業では、例えば、全文を1枚にまとめたシートを活用し、写真と段落の対応を整理しながら、各段落の役割や相互の関係をまとめることが考えられます(図1)。

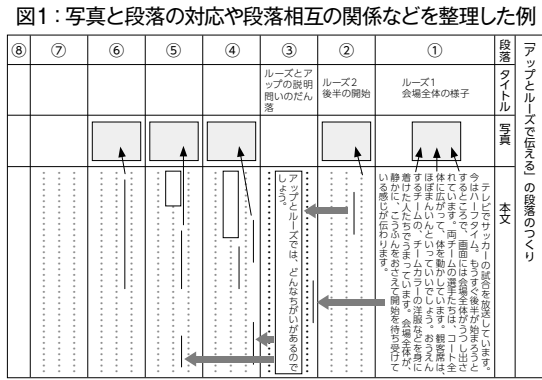


図2: 整理した段落構成を見ながら話し合っている様子

「アップとルーズで伝える」と「思いやりのデザイン」は、どちらも2つの伝える方法を対比させているね。どうして、こんなふうに書いているのかな。

2つの方法の違いを分かりやすく説明するためではないかな。どちらの文章も「しかし」とか「でも」を使いながら、それぞれの方法の長所と短所を書いているよ。

「アップ」と「ルーズ」の長所と短所について、対比させながら説明することによって、「伝えたいこと」に合わせて選んだり組み合わせたりする必要が「ある」という筆者の考えに納得できるように工夫しているんだね。

段落構成を整理することにより、筆者の考えと、それを支える具体的な例との関係を視覚的に捉えることができ、「筆者の考えが繰り返されているのよなぜか」「アップ」と「ルーズ」の段落が対比的に説明されていることよよさについてどう思うか」など、筆者の説明の工夫について話し合うときの論点を焦点化することができます(図2)。

また、単元の導入時に読んだ「思いやりのデザイン」の段落構成と比較することで、段落構成にかかわる「問い」を生み出すこともできます。

「アップとルーズで伝える」など、「人に伝える」ということについて、自分の考えをまとめる際には、その考えを支える具体的な例や根拠を明確にすることが大切です。例えば、自分が人に何かを伝える場面を思い浮かべ、これまでうまくいかなかった経験やこれから工夫したいことなどを明らかにしたり、本文のなかから、自分の考えの基になった部分を抜き出したりしながら、自分の考えを整理することなどが考えられます(図3)。

自分の考えを発表する際には、整理した自分の考えをどのように伝えるかを考えます。具体的な例や根拠をどのように取り上げるか、どんな順序で話したらよいかを考えることができるよう、教師が発表のモデルをいくつか提示して参考にできるようにすることも考えられます(図4)。

図3: 自分の考えとそれを支える具体的な例の整理

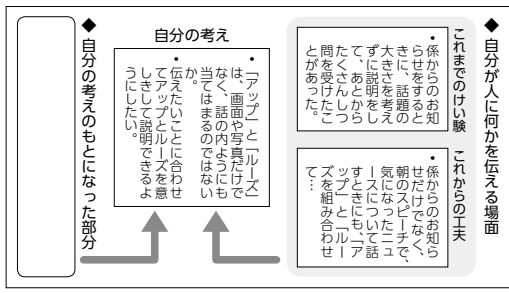


図4: 発表のモデル例

自分の考え → 具体例 → 引用 の順で
 これまでの経験を基に発表

引用 ↓ 自分の考え ↓ 具体例 の順で
 これまでの経験を基に発表

筆者は、読み手である私たちにに対して、何かを伝えたいと思うときには「ある部分を細かく伝えるアップ」と、広い範囲の様子を伝える「ルーズ」があることを思い出しました。と述べたいです。確かに、「アップ」と「ルーズ」は、画面や写真だけでなく、話の内容にも当てはまるのではないかと思います。私はこれまで、例えば、係からのお知らせをするときに、・・・(後略)

なお、「アップとルーズで伝える」のほか、「思いやりのデザイン」や「この本、読もう」で紹介されている本を読んで考えたことを発表してもよいとすることにより、子供の読書の幅を広げ、日常の読書活動の充実につなげることも考えられます。



折れ線グラフと表

執筆 / 福岡教育大学附属福岡小学校教諭 西島大祐
 編集委員 / 文部科学省教科調査官 笠井健一
 福岡教育大学教授 清水紀宏

年間指導計画



4/5月	折れ線グラフ 1けたでわるわり算
6/7月	四角形 2けたでわるわり算
8/9月	がい数 倍
10/11月	計算の順序 面積
12/1月	変わり方 小数のかけ算わり算
2/3月	分数 直方体と立方体

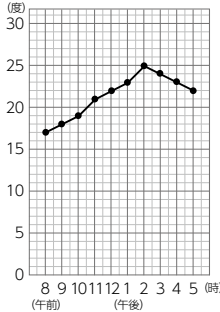
本時のねらい (本時 13 / 14 時)

データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを作成し、変化の傾向について考えることができる。

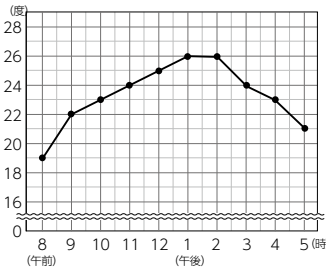
評価規準 折れ線グラフの縦軸の目盛りの幅を適切に設定し、変化の傾向を読み取ったり、変化を比較したりすることができる。(思考力、判断力、表現力等)

問題 6月と10月の気温の変化のちがいは？

6月1日の気温の変化



10月1日の気温の変化



T : 6月と10月の気温の変化について、折れ線グラフに表しました。気付いたことを言いましょう。

C : 6月の気温が高く見えます。

C : 10月の気温の変化が大きいです。

C : 2つのグラフを比べると傾きが違っていています。

C : 目盛りが違っていて比べにくいです。

問題場面で2つのグラフを提示したときの子供たちの気づきを大切にしましょう。2つのグラフの印象が違うことから本時のめあてを考えていけるようにしたいですね。

学習のねらい 6月と10月の気温の変化を比べるには、どのような工夫をすればよいか考えよう。

見通し 《2つのグラフの違い》

- 10月のほうが変化が大きく見える。
 - 6月のほうが気温が高く見える。
 - 縦軸の目盛りが違っている。
- ↓
- 縦軸を揃えたらよさそう。

いろいろな意見が出ましたね。どのようにしたら、6月と10月の気温の変化を比べやすくできそうですか。

縦軸の目盛りをそろえたらよさそうです。



※見通しの段階では、それまでに発表された気づきを確認しながら、縦軸の目盛りの幅をどのようにしたら比べやすくなるのかという思考へと方向付けていきます。

自力解決の様子

A つまづいている子

縦軸をそろえるということの意味が理解できず、グラフを作りかえることができない。

B 素朴に解いている子

10月のグラフについて、縦軸の幅を0度から30度にしたグラフを作って、変化を比べている。

C ねらい通り解いている子

6月と10月の最低気温と最高気温に着目し、変化の様子をより捉えやすいグラフを作って、変化を比べている。

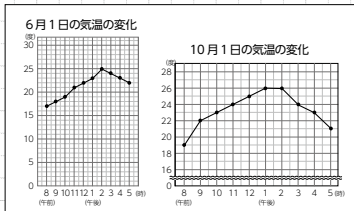
●自力解決時における教師の役割

Aの子供には、6月と10月の縦軸の目盛りが異なることを確認したうえで、どちらかにそろえるよう促します。どちらにそろえるかを選択させて、午前8時と9時の点の取り方を確認し、残りのデータを自力でグラフに書かせます。

Bの子供には、0度から15度のスペースがあることを確認し、時間があれば10月のグラフの縦軸にそろえるよう促しましょう。すべての子供に対して、縦軸の目盛りの幅がそろったグラフを比べさせて、変化の傾向を考えさせます。

ノート例

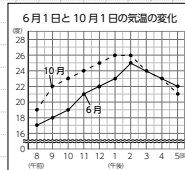
〈めあて〉
6月と10月の気温の変化を比べると、どのような工夫をすればよいか考えよう。



〈気づいたこと〉
・6月の気温のほうが高い
・10月の気温の変化が大きい
・めもりがちがって比べにくい
〈見通し〉
・たてじくをそろえたら、2つのグラフも比べやすくなりそう。

〈考え①〉
・6月が10月のグラフのどちらかにそろえる。
・10月のグラフにそろえると、分かりやすい。

〈考え②〉
・たてじくをそろえて書きかえた。
・2つのグラフを重ねた。
・6月のほうが変化が大きいことが分かる。



〈まとめ〉
グラフのたてじくをそろえると、変化のちがいが分かりやすい。

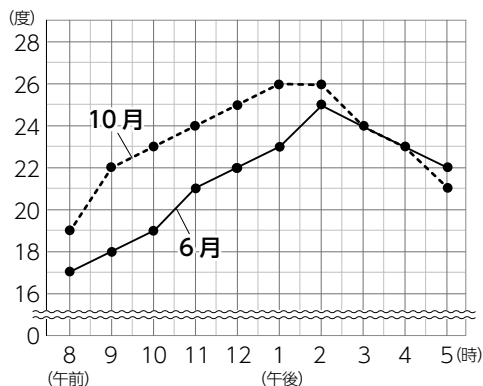
〈問題〉
・たてじくの1めもりが1度だと体温の変わり方が分かりにくい。
・たてじくの1めもりを0.1度にするとう変化が見やすくなる。
〈感想〉
たてじくを工夫すると比べやすい。



全体発表とそれぞれの考えの関連付け

- T:どのようにグラフを作りかえましたか。
C:6月のグラフにそろえました。(グラフを提示)
C:10月のグラフにそろえました。(グラフを提示)
※10月にそろえたグラフのほうが気温の変化が捉えやすいことや、気温の変化の傾向を確認する。
C:私は2つのグラフを重ねてみました。(右のグラフ)
T:このようにすることで、どのようなことがわかりますか。
C:10月のほうがだいたい気温が高いです。
C:3時で気温が逆転しています。
C:2つのグラフを別々に書くよりも比べやすいと思います。

6月1日と10月1日の気温の変化



👍 学習のまとめ

グラフの縦軸をそろえると、変化の違いが分かりやすい。

評価問題

花子さんはかぜをひいたときの体温の変わり方を折れ線グラフに表しました(1度のグラフ)。体温の変わり方を分かりやすくするには、グラフをどのように作りかえるとよいですか。

子供の期待する解答の具体例

1めもりを0.1度になるように縦軸を変えると体温の変化が分かりやすくなります。

感想例



縦軸の目盛りを工夫することで、複数のグラフを比べやすくなることが分かりました。



わり算 (1)

執筆 / 福岡教育大学附属福岡小学校教諭 石橋大輔
 編集委員 / 文部科学省教科調査官 笠井健一
 福岡教育大学教授 清水紀宏

年間指導計画	4/5月	折れ線グラフ 1けたでわるわり算
	6/7月	四角形 2けたでわるわり算
	8/9月	がい数 倍
	10/11月	計算の順序 面積
	12/1月	変わり方 小数のかけ算わり算
	2/3月	分数 直方体と立方体

本時のねらい (本時 1 / 11時)

数量の関係に着目し、除数が1位数で被除数が2位数の場合の除法の計算のしかたを図などを基に筋道立てて考えることができる。

評価規準 10のまとまりに着目して、被除数の十の位の数を除数で割るなどの計算のしかたを考えることができる。(思考・判断・表現)

問題

72まいの色紙を、3人で同じ数ずつ分けます。1人分はなんまいになりますか。

T: 式はどうなりそうですか。
 C: $72 \div 3$ になると思います。
 T: なぜ、わり算になるのですか。
 C: 3人で同じ数ずつ分けていくからです。

立式の根拠を説明できることはとても大切です。その際、文章の言葉だけを根拠にするのではなく、「同じ数ずつ分ける」というイメージを学級で共有しましょう。



学習のねらい

2けた \div 1けたのわり算のしかたについて考えよう。

見通し

【答えの見通し】 20枚くらい
【方法の見通し】
 ・ $60 \div 3$ はできる。
 ・ 割られる数を分解する。

T: これまでの2けた \div 1けたの計算と、どこが違いますか。
 C: これまでは十の位と一の位に分けると、それぞれ割り切れて答えが見付かったけれど、今回は十の位が割り切れません。
 T: 十の位が割り切れないなら答えは見付からないのですか。
 C: 十の位が割り切れないときにどうするかを、この時間に考えてみましょうよと思います。

見通しの段階では、答えを見積もったり、既習を基にして方法を見通したりします。教師が「今まで習った計算とどこが違うかな」と発問し、これまでとの違いを明確にするとともに、今まで習ったことに直す(帰着する)という思考へと方向付けていきます。

自力解決の様子

A つまずいている子

被除数をどのように分けて計算すればよいか分からずに、答えを見付けることができない。

B 素朴に解いている子

1人に10枚ずつ配るイメージ図などを基に、72を60と12に分け、24枚という答えを見付けている。

C ねらい通り解いている子

10のまとまりに着目し、 $7 \div 3$ を計算し、あまった1である10と2を合わせて12とするなどして、24枚という答えを見付けている。

学び合いの計画

Aの子供に対しては、10枚の色紙7束と2枚の図をノートに書かせて、3人で分けると1人が何枚か考えさせましょう。

Bの子供に対しては、答えを求めるための式が $72 \div 3$ というわり算であること、前時は(十の

位の数) \div (商)を計算したことから、十の位の数の7を3で割ったときの、商とあまりの意味(7束を3人で分けると2束配れて1束余ること)を色紙のイメージ図で考えさせましょう。

ノート例



〈めあて〉
2けた÷1けたのわり算のしかたについて考えよう。

〈問題〉
72まいの色紙を、3人で同じ数ずつ分けます。
1人分はなんまいになりますか。

〈見通し〉
・20まいくらいになりそう
・ $60 \div 3$ はできる
・わられる数を分ける

〈考え①〉
72 $\left\{ \begin{array}{l} 60 \quad 60 \div 3 = 20 \\ 12 \quad 12 \div 3 = 4 \end{array} \right.$
 $20 + 4 = 24$
答え 24まい

〈考え②〉

 $7 \div 3 = 2$ あまり 1
 $12 \div 3 = 4$
 $20 + 4 = 24$
答え 24まい

〈まとめ〉
2けた÷1けたのわり算では、十の位から先に計算する。

〈問題〉
 $68 \div 4$
 $6 \div 4 = 1$ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺
20 + 8 = 28
 $28 \div 4 = 7$
 $10 + 7 = 17$
〈感想〉
わられる数の分け方が大切。
これまでと同じ方法が使える。

全体発表とそれぞれの考えの関連付け

ここでは、10のまとまりに着目することで、(十の位の数) ÷ 3から計算できることとそのよさを理解させることが主眼になります。

- T: C 1さんは72を60と12に分けて計算していますね。なぜ70と2ではなく、60と12に分けたのでしょうか。
- C: 60と12に分けたら、60も12も3で割れるからだと思います。
(※以下、やり方を確認する。)
- T: C 2さんは十の位の7を3で割って、2あまり1としていますね。このことを色紙で説明できますか。
- C: 7は束の数です。だから2束ずつ配れて、1束余っているということです。
- T: 枚数で言うとうどうなりますか。
- C: 20枚ずつ配れて、10枚余っています。(※以下、 $12 \div 3 = 4$ 、 $20 + 4 = 24$ ……を確認する。)
- T: これらの2つの考えに、共通しているところはありますか。
- C: どちらも最初に20枚配って、次に4枚配っています。
- T: 最初の20枚が簡単に出てくるのはどちらの方法だと思いますか。
- C: 60と12に分ける方法は、図を書いたり、かけ算をしないと60が出てきません。
- C: $7 \div 3$ の方法は2がすぐに出るし、前の時間の問題のやり方に似ています。

👍 学習のまとめ

2けた÷1けたのわり算では、先に十の位から計算する。余ったときはあまりを一の位と足して計算すれば、これまでの考えが使える。

評価問題

$68 \div 4$ の計算のしかたを考えましょう。

子供の期待する解答の具体例

$6 \div 4 = 1$ あまり 2 $20 + 8 = 28$
 $28 \div 4 = 7$ $10 + 7 = 17$

感想例



割られる数が2けたのときも、工夫することでこれまでの考え方が使える。



十の位を割ったときのあまり1を、10と見る見方が大切。



走る楽しさに触れ、記録の短縮をめざそう

めざせ「かけっこ・リレー名人」

走・跳の運動（かけっこ・リレー）

執筆／新潟県新潟市立有明台小学校教諭 櫻井朝之
編集委員／国立教育政策研究所教育課程調査官 塩見英樹
新潟県新潟市立大形小学校校長 長谷川智

年間指導計画	4/5月	走・跳の運動（かけっこ・リレー） 体づくり運動
	6/7月	器械運動（マット運動） 水泳運動
	8/9月	走・跳の運動（小型ハードル走） ゴール型ゲーム
	10/11月	表現運動 ベースボール型ゲーム
	12/1月	走・跳の運動（幅跳び） 器械運動（鉄棒運動）
	2/3月	ネット型ゲーム 器械運動（跳び箱運動）

授業づくりのポイント

走ることは、すべての運動の基礎となる動きです。春休み中に運動する機会が少なかった子供たちが楽しみながら走ることを通して、身体を使う感覚を取り戻したり、友達と一緒に運動する喜びを味わったりできるようにします。

中学年の「走・跳の運動」の「かけっこ・リレー」では、その楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、調子よく走ったり、走りながらバトンを受け渡した

りする基本的な動きや技能を身に付けることが大切です。また、新年度がスタートするこの時期に、走る楽しさや心地よさにつながる指導を基本にしながら、友達と競走する楽しさを味わえるようにしていきます。

さらに、個人やチームの記録の短縮をめざして、友達のよい動きを見付けたり、互いに教え合ったりしながら学習を進め、誰とでも仲よく助け合う学級づくりのきっかけにしていけることが大切です。

楽しもう ～「かけっこ」で楽しもう～

単元前半では、いろいろな「かけっこ」を通じて、調子よく最後まで走る感覚を味わえるようにします。そこで、まず大切にしたいことは、身体を素早く動かしたりタイミングよく手足を動かしたりして、自己の身体を自由にコントロールして走れるようになることです。いろいろな姿勢で走ったり、走り方を工夫したり、さまざま

な場のコースを設定して、条件に合わせて競走したりすることで、楽しみながら基本的な動きや技能を身に付けられるようにします。

互いの走りを見合いながら、友達のよい動きを見付けたり自分で考えたことを友達に伝えたりすることで、より一層学びの質を高めていけるようにします。

いろいろな「かけっこ」で楽しもう

☆制限走（走る姿勢を工夫する）

真っ直ぐ前を見て走るぞ。

腕組みすると走りにくいなあ。

腕を前後に大きく振ると、走りやすいね。



手を前に 腕組み 手を後ろに

制限する距離を短くして安全面に配慮しましょう。

☆ライン走・スラローム走（走るコースを工夫する）



コーンの近くはスピードを考えて走ろう。



☆スキップ走・新聞紙走・しっぽ走（走り方を工夫する）

腕を高く振ると、うまくスキップできるよ。

手を広げると、新聞紙が落ちないよ。

2mのしっぽが地面に付かず走れるよ。

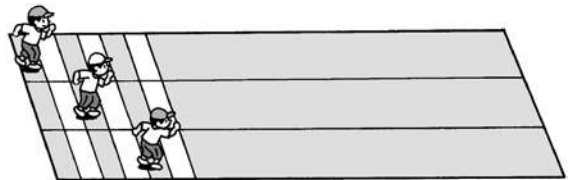


スキップがうまくできない場合は、2歩ずつケンケンしてみよう。

腕を広げなくても落とさず走れるかな。

3mのしっぽでもできるかな。長いので友達に持ってもらうてスタートしよう。

☆5秒間走



少しがんばれば達成できるように、スタート位置は50cm刻みでラインを引きます。5秒びつたりゴールできるように、スタートする位置を前にしたり後ろにしたりします。直線のコースだけでなく、曲線のコースでもできます。

単元計画

※単元前半ではいろいろな「かけっこ」で走る楽しさに触れ、単元後半では「リレー」を通じて友達と協力して競走する楽しさに触れることを想定しています。

時	1	2	3	4	5	6	
0	●オリエンテーションをしよう ・体育授業の約束確認 ①全力で運動する ②考えて運動する ③友達と協力する ・集合や整列のしかた ・学習の進め方 ・準備運動 ・変形ダッシュ ・ねことねずみ ○走る姿勢を工夫する ・「手を前に」 ・「腕組み」 ・「手を後ろに」	☆変形ダッシュ （さまざまな姿勢からスタートする） ☆ねことねずみ 「氣を付け」「後ろ向き」「長座」「体育座り」「うつ伏せ」 慣れてきたら、変形ダッシュの姿勢で実施してみましょう。	●いろいろな「かけっこ」で楽しもう ○走るコースを工夫する。 ・ライン走、スラローム走 ○走り方を工夫する。 ・スキップ走、新聞紙走、しっぽ走 ○5秒間走 ・直線コース→曲線コース	●「リレー」でもっと楽しもう ○スタートのタイミングをつかもう ・追いかけて走→マークスタートの追いかけて走 ○2人のスピードを合わせよう ・ペーパーバトンパス→並列走 ○周回リレー ・タイムトライアル→デュアル・リレー			
45		振り返りをしよう（できたこと・分かったこと・真似してみたい友達の動き）					
		運動を楽しもう		もっと運動を楽しもう			

もっと楽しもう ～「リレー」でもっと楽しもう～

単元後半では、単元前半の「かけっこ」で高めた「走力」を土台にして、友達と協力しながら「周回リレー」をしていきます。中学年のリレーでは、走りながらタイミングよくバトンの受け渡しができるようになることをめざします。そのため、リレーのバトンパスと類似した経験を通して、次走者がスタートのタイミングをつかんだり、2人が走るスピードを維持したままバトンパスできるよ

うにしたりしていきます。

また、グラウンドにある既設のトラックを利用した周回コースで行うことで、コーナーの内側に体を軽く傾けて走るなど、リレーの基本的な動きや技能を身に付けていきます。ほかのチームと競走するだけでなく、チームの記録短縮をめざして、互いに見合ったり教え合ったりしながら学習を進めていきます。

スタートのタイミングをつかもう

☆追いかけて走（後ろの走者が前の走者のタグを取る）



☆マークスタートの追いかけて走



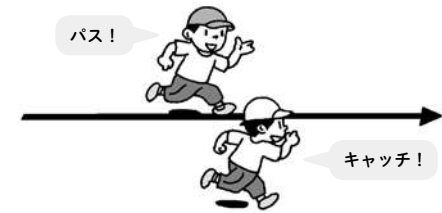
※少しずつマークの位置を変えていく。
 安全地帯まで逃げ切れた→マークを近くする
 逃げ切れない→マークを遠くする

2人のスピードを合わせよう

☆ペーパー（紙や新聞紙）バトンパス



☆並列走



新型コロナウイルス感染症対策として、バトンを使わずに声を使ってパスすることもできます。

周回リレー ※グラウンドにある既設のトラックのコーナーを利用して2つのサークルを作成。テークオーバーゾーンは約15m。

☆タイムトライアル

- ・4人1チームで1人半周を走る。
- ・タイムを計測して記録の短縮をめざす。

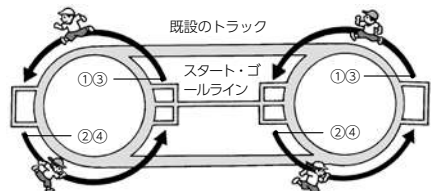
☆デュアル・リレー

- ・2つのチームが競走する。

内側に体を傾けると速く走れるよ！



各チームで記録の短縮時間を競うだけでなく、各チームの記録の短縮時間を足して前回と比較することで、クラス全体の共同意識が生まれます。



- ①③・第1走者、第3走者スタート位置（バトンゾーン）
- ②④・第2走者、第4走者スタート位置（バトンゾーン）



多様な動きを身に付けよう

みんなで楽しもう！ わくわく体づくり運動

体づくり運動

執筆／新潟県新潟市立上所小学校教諭 神子島強
編集委員／国立教育政策研究所教育課程調査官 塩見英樹
新潟県新潟市立大形小学校校長 長谷川智

年間指導計画	内容
4/5月	走・跳の運動 (かけっこ・リレー) 体づくり運動
6/7月	器械運動 (マット運動) 水泳運動
8/9月	走・跳の運動 (小型ハードル走) ゴール型ゲーム
10/11月	表現運動 ベースボール型ゲーム
12/1月	走・跳の運動 (幅跳び) 器械運動 (鉄棒運動)
2/3月	ネット型ゲーム 器械運動 (跳び箱運動)

授業づくりのポイント

中学年の体づくり運動は、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、低学年の運動遊びで培った動きを基に、さらに基本的なレパートリーを広げたり、動きの質を高めたりすることをねらいとしています。

「多様な動きをつくる運動」は、楽しく運動をしながら、多様な動きを身に付けたり、さまざまな体の基本的な動きを身に付ける運動です。今回は、「体を移動する運動」

「用具を操作する運動」「基本的な動きを組み合わせる運動」に重点を置き、いろいろな動きに挑戦してみましょう。また、より楽しい運動になるように「用具の操作や行う人数」などを工夫して運動への意欲を高めていきましょう。

楽しく運動するなかで動きが高まっていくことをめざします。

楽しもう ～いろいろな動きに挑戦してみよう！～

まずは、運動ができる・できないにかかわらず、運動そのものを楽しめるようにしていきます。体を動かす楽しさや心地よさを味わい、いろいろな動きを経験できる活動の場を用意しましょう。

次に、子供たちの思考を促しながら動きのポイントやコツの共有化を図るようにしていきます。運動を繰り返すことも大切ですが、滑らかな動きにするためには

行い方のポイントやコツが必要です。そのためにも、上手な子供を手本にして発問することで、動きのポイントやコツの共有化を図るようにしていきます。

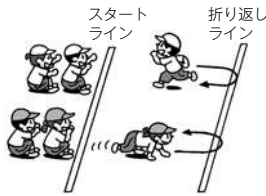
また、1単位時間の授業を計画する際には、本時の目標を明確に設定することが大切です。身に付けさせたい動きを明確にした授業づくりを意識しましょう。

体を移動する運動の例

這う、歩く、走るなどの動き

●折り返しの運動

けんけん、手足走り、うさぎ跳び、くも歩きなど、さまざまな運動を取り入れましょう。



跳ぶ、はねるなどの動き

●線わりたりじゃんけん

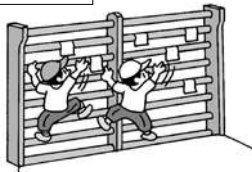
体育館に引かれた線の上をスキップしたりギャロップしたりし、出合った人とじゃんけんをします。



登る、下りるなどの動き

●肋木クライム

肋木の両側から肋木の数か所に貼られたテープに触りながら横に移動します。



用具を操作する運動の例

用具をつかむ、持つ、おろす、回す、転がすなどの動き

●フープ回し



●フープ転がし



用具を投げる、捕るなどの動き

●ボール投げ

ボールを上に向けて両手や片手でキャッチします。慣れてきたら投げた後に何回拍手ができるかを競いましょう。

●フープ投げ

相手が捕りやすいようにフープを投げます。慣れてきたら、だんだんと距離を離していきましょう。

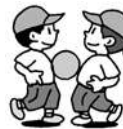
用具を運ぶなどの動き

●はさんでボール運び

両膝や両足首に力を入れて落とさないようにジャンプして運びます。

●2人組ボール運び

2人ではさんでボールを運びます。



用具に乗るなどの動き

●大きなボールに乗ってみよう



座って

イナバウアーで

2ついっしょに

単元計画

※2～3時間目は、いろいろな運動を試してできる動きを増やしていきます。4～5時間目は、できる動きを組み合わせた運動に取り組みます。

時	1	2	3	4	5	
0	<p>●オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育の一年間の約束について確認する。 ①全力で運動する ②考えて運動する ③友達と協力する ・集合や整列のしかた ・学習の進め方 ・準備、片付けの確認 <p>●体ほぐしの運動をしよう</p> <p>ストレッチやリーダーの真似っこなど、みんなでかわり合える運動をする。</p>	<p>●体ほぐしの運動をしよう</p> <p>友達とかかわる体ほぐしの運動や、心や体の状態に気付ける体ほぐしの運動に取り組む。</p> <p>【ペアでストレッチ】</p> <p>【ペアで立ってみよう】</p> <p>【みんなで肩たたき】</p> <p>【人間知恵の輪】</p>	<p>●体を移動する運動をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・折り返しの運動 ・まねっこ走 ・線わたりじゃんけん ・体じゃんけん ・肋木クライム ・肋木じゃんけん 	<p>●用具を操作する運動をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フープ回し ・フープ転がし ・ボール投げ、フープ投げ ・はさんでボール運び ・2人組ボール運び ・大きなボールに乗ってみよう 	<p>●「体を移動する運動」と「用具を操作する運動」を組み合わせてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フープスキップ ・1回転してボールキャッチ ・ボール運びリレー ・リズムに合わせてボール渡し 	
		いろいろな動きに挑戦してみよう！		動きを組み合わせてやってみよう！		
		ふり返りをしよう（できたことや分かったこと、友達の動きで真似をしてみたいこと）				
45		運動を楽しもう		もっと運動を楽しもう		

もっと楽しもう ～動きを組み合わせてやってみよう！～

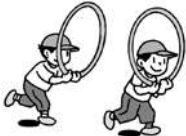
単元前半で、それぞれの動きを十分に経験して楽しんだら、単元後半は、単元前半で学習した「体を移動する運動」と「用具を操作する運動」を組み合わせた運動に取り組みます。「○○しながら○○する」や「○○してから○○する」という視点をもって運動を考えるようにすることが有効です。友達どうしてリズムをとって応援

をしたり、協力して活動に取り組んだりすることの大切さも教えていきましょう。

また、子供が競争に夢中になってしまうと、お互いにくつかったり、用具が当たったりすることも考えられます。安全面に十分に配慮し、子供の動きに気を配りながら進めていきましょう。

組み合わせの運動の例（体を移動する運動+用具を操作する運動）

●フープスキップ（ギャロップ） ●シンクロフープ



フープを跳びながら移動する。



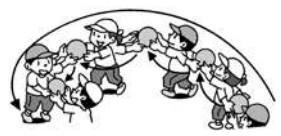
2人でフープを回しながら歩く。

●1回転してボールキャッチ



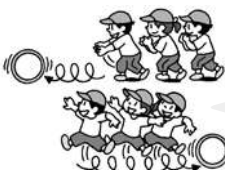
上にボールを投げてから前転をしてキャッチする。

●リズムに合わせてボール渡し



太鼓の合図で弾ませていたボールを右隣に渡す。

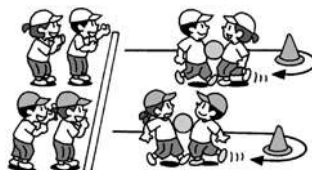
●みんなでジャンプ



バックspinで転がしたフープをジャンプする。

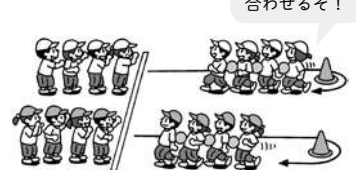
3人跳べたぞ！

●ボール運びリレー



2人組でボールをはさみ、リレー形式で競争する。

●ボールはさみリレー



背中とお腹でボールをはさみ、リレー形式で競争する。

みんなで息を合わせるぞ！

単元を通して、「もっとやってみたい」「もっとこうしてみたい」という子供の思いを大切にしながら運動を発展させていきましょう。そのために、子供の動きをしっかり見とり、よりよい動きを称賛していきましょう。

また、みんなで協力したり、競争したりする場を設けることで、友達の動きに目を向けるようになります。グループ内でのかわり合う姿にも目を向け、よい姿が見られたら、ほめていくとよい雰囲気生まれます。

体づくり運動は、友達とのかかわりが多くなる単元ですが、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、相手との身体的距離を確保することやなるべく近接する場面の頻度を減らす工夫、大声を出さない工夫などが必要です。地域の感染状況を踏まえ、運動を選び、実施していきましょう。